

不妊治療(ART)出生児の先天異常発生率

メタデータ	言語: jpn 出版者: 日本DOHaD学会 公開日: 2022-03-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 岡本, 悦司 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/00004027

第 10 回日本 DOHaD 学会

<一般口演 5>

不妊治療(ART)出生児の先天異常発生率

福知山公立大学地域経営学部医療福祉経営学科

岡本 悦司

ー

【目的】わが国は不妊治療(assisted reproductive treatment, ART)大国であり、2017 年には出生 946065 人の約 6%にあたる 56617 人が ART で出生している。2022 年度より不妊治療に保険適用されれば、不妊治療による出生児はさらに増加が予想される。しかしながら、不妊治療はまた先天異常の発生率が自然妊娠出生児に比べて 1.4 倍になる、というメタアナリシス結果もある。ART 出生児の先天異常発生率を日本産婦人科学会の公表データより分析した。

【方法】日本産婦人科学会が毎年公表する 2011~17 年分の ART の実施成績と先天異常症例を分析した。対象としたデータは予後が「出生」であった者、また先天異常は ICD10 の Q 分類に属するものとした(他の病態は対象とせず)。

【結果】ART 実施状況(2007~17 年の 11 年間)

11 年間の累積 ART 出生児数は 364476 人であり、治療法別には凍結胚移植(FET)264559 人(72.6%),顕微授精(ICSI)53042 人(14.6%),体外受精(IVF)46875 人(12.9%)であった。

先天異常発生状況

ART 出生児のうち 6905 人(1.9%)が ICD10 の Q コードに該当する何らかの先天異常を有していた。一人で複数の先天異常を有する者もあり、先天異常の延べ数は 7512 であった。障害の種類別では循環器(Q2)2642(35.2%)と圧倒的に多く、腎尿路(Q6)984(13.1%)そして染色体異常(Q9)809(10.8%)と続いた。

【考察】ART 出生児の先天異常の有病率は約 1.9%という結果であった。日本産婦人科学会先天異常モニタリングによると発生率は近年では 1.7~2%前後とされ ART 出生児と大差ない。ただモニタリングは全出生の 10%しかカバーしておらず、出生前診断により発見→紹介された患者が集中するバイアスにも留意すべきであろう。